

矢野梅雲 小説家、俳人。明治十五年二月九日石川縣生れ、昭

和二十六年十一月十三日歿（八八—一九六二）。本名義勝。早稲田大學卒。

大正四年報知新聞社入社。十五年雜誌『大衆文藝』創刊同人。一方俳

句を『正岡子規』の師事、俳誌『破庵』、『俳句と批評』、『俳句と添

削』、『子規』、『梅雲』を創刊主宰。戰後日本俳句會主宰。

著書『地から出る月』（大正十二年七月五日東京閣書店）、『江戸史

熱風を踏みゆく』（大正十二年八月十日朝倉屋書店）、清水次郎長

（大正十二年十月十五日報知新聞社出版部）、『東京放心遊記』（大

正十五年十一月一日東京閣書店）、『大岡記』（一・大正十五年十一月

月二十日、2・昭和二年七月二十日京置文館、3・三年二月十日、4

・四年六月十日京置文館）、『古今各句評釋』（昭和十年二月十一日非

凡閣『俳句評釋選集』）、『俳句作法講座・第一卷』（合著・山本二

生編、昭和十年九月二十日改造社）、『修養筆壇集』（合著、昭和十

二年五月五日法話會編輯、交通新報社）、『定本忠臣蔵』（第一卷、素

行と赤穂の巻、昭和十七年二月十日、第二卷、事變の巻、四月五日、

第三卷、開城の巻、六月十日、第四卷、山科の巻、七月十日、第五卷

、出陣の巻、第六卷、偵察の巻、十月二十日、第七卷、背ける人々の

巻、十八年四月五日長隆金書店）、『修養大岡記』（昭和十七年七月

二十日文芸堂）、『龍馬と象二郎』（昭和十七年八月五日霞ヶ関書

房）、『男の中の男』（昭和十七年九月二十日輝文堂書房）、『第一

梅雲詩集』（昭和十八年二月五日長隆金書店）、『人使ひ名人傳』（昭

和十八年十一月二十日輝文堂書房。再刊『人使ひ名人傳』、二十五年一

月二十八日池田書店。今日の教養書選』、改題『戦国武将人使ひ名人

伝山新装第一刷・六十二年二月・千五百原書房）、中若菜之白の親鸞山
（昭和二十二年）三月・千五百新田印刷社）、中澤村由之助（昭和二十
五年）二月・千五百北光書房）等。